

令和4年3月22日

氷見市長
林正之 様

西部清掃センター施設の撤去、及び跡地活用の要望(令和3年度 4回目)
(追記:5. 実行計画を作成ください)

熊無自治会長
清角孝明



熊無では市のごみ処理施設として「西部清掃センター」(以下は施設と記載)を受け入れて約50年間にわたり運用に協力して来ました。

施設は7年前に稼働停止されましたが、熊無からの度重なる撤去要望にも関わらず施設は現在も残っております。

熊無といたしましては、改めて施設の早期撤去を要望いたします。

1. 施設撤去に関して要望事項

1) 施設の早期撤去

2) 施設跡地の有効活用

- ①熊無の当初要望は太陽光施設の設置でしたが、困難との回答を受領しています。
- ②市からは廃棄物処理施設関連での活用を提案されていますが、以下を要望します。
 - ・地元環境に優しい施設としてほしい。
 - ・地元の雇用に役立つ施設としてほしい。



2. これまでの概略経緯

時期	市の動き	熊無の動き
昭和51年頃	①施設の建設にあたって熊無に協力依頼	②熊無内部で反対意見もある中、地区内をまとめて市に協力
平成27年～	③施設の稼働停止	④施設の撤去を要望
平成28年～	⑤撤去後の跡地活用について地元からの提案を求める	⑥太陽光発電施設を建設して活用を提案 ・施設建設経験の業者に依頼して費用対効果試算で提案 ・カーボンゼロを前提に7年間継続して要望
令和元年	⑦市役所屋上で太陽光発電の実証実験を実施	
令和2年	⑧実験したが熊無での対応は不可と判断	
令和2年～3年	⑨提案した熊無には何ら説明せず、市として都合がよい点を熊無以外で進める。	⑩熊無の協力に対して、市の対応、手ぬるさに不信感が強まる
令和3年～	⑪熊無からの依頼を受けて進捗説明会を開催	

3. 熊無通常総会（令和4年2月）での住民意見

施設の撤去とその後の活用について市からの説明会の内容（1月8日実施）を熊無通常総会（2月6日実施）で報告しました。

結果、以下の意見がありました。

＜熊無通常総会での意見＞

1) 市の説明は昨年と変わらない。進捗が感じられない。

2) 熊無は市に対して大きく協力してきたが、市は熊無要望に答えてない。

熊無の協力 反対意見ある中で施設の建設・運用に協力

施設撤去後の跡地活用について前向き提案（太陽光発電施設建設）

3) 市は頑張ると言ってるがそうは見えない。流れに乗って通常業務として処理しているだけで解決の努力が感じ取れない。

4) それでは困る、知恵を出して努力して多方面からの対応を求める。

4. 検討依頼

1) 一般会計の歳入・歳出の差額活用

氷見市2月広報、8ページ参照ください。

令和2年度、氷見市各会計の決算報告

一般会計	歳入	301億9,903万円
	歳出	290億6,392万円

差額は11億3,511億円あります。

一般会計です。本要望の実現に向けて差額の活用について柔軟な考え方で検討ください。

2) 過疎債の活用

施設の撤去と跡地の活用を分けて対応するのではなく、一体化して進める。

広く役に立つ建物設備や場所が必要、そのために西部清掃センター施設を撤去する。

過疎債での申請を検討ください。

5. 実行計画を作成ください（市ゼロカーボン戦略との関連）

北日本新聞（2022年3月11日、22面）によれば、市ゼロカーボン戦略を基にした22年度実行計画を作るとの報道があります。

市ゼロカーボン戦略は、平成28年度から継続して熊無自治会から要望提案している、西部清掃センターの撤収と跡地有効活用から進展したものです。

要望提案事項が市として有効と判断され前向きに動いていることは嬉しいことです。

しかしながら提案元の熊無に対する動きが鈍いことは依然として不満足です。

市ゼロカーボンゼロ戦略と同様に具体的な実行計画の作成を要望します。

方向性を示すことだけでは進みません。前向きに動いてください。